

平成25年度病害虫発生予察注意報第4号

平成25年10月1日
愛知 県

作物名：イチゴ
病害虫名：ハダニ類

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生程度 多い
- 3 注意報発令の根拠

- (1) 9月下旬の巡回調査の結果、イチゴにおけるハダニ類の寄生葉率は、4.2%（平年2.8%、前年1.7%）で過去10年と比較して3番目に高く、発生ほ場率も24.0%（平年22.2%、前年23.1%）で平年を上回っている。
- (2) 平成25年9月27日名古屋地方気象台発表の1か月予報では、向こう1か月の気温は高く、特に10月5日頃から1週間は、かなり高くなると予想されており、ハダニ類の発生に適した環境条件が見込まれる。

4 防除上注意すべき事項

- (1) 発生を認めたら、下表を参考に早期に防除を行う。
- (2) ハダニ類は下葉の裏に多く寄生しているのので、薬液が葉裏にも十分かかるように丁寧に散布する。
- (3) ハダニ類は薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の連用を避ける。
- (4) 主要な化学農薬に対して感受性が低下した個体群が確認されているので、化学農薬の効果が低い場合には、気門封鎖型農薬も活用して防除する。
- (5) 農薬によってはミツバチ及び天敵への影響があるので、農薬の選定には注意する。
- (6) 天敵を放飼する場合は放飼前に徹底した防除をする。

表 イチゴのハダニ類に対する主な防除薬剤

薬剤名	希釈倍数	収穫前日数 /使用回数	系統	ミヤコカブリダニ に対する 影響			チリカブリダニ に対する 影響		
				卵	成	残	卵	成	残
アフーム乳剤	2000倍	前日/2回	A	×	×	-	×	×	-
コロマイト水和剤	2000倍	前日/2回	A	-	△	1	-	-	-
スターマイトフロアブル	2000倍	前日/2回	B	-	-	-	-	-	-
ダニサラバフロアブル	1000倍	前日/2回	B	-	◎	-	-	-	-
ニッソラン水和剤	2000～3000倍	前日/2回	C	-	◎	0	◎	◎	0
マイトコーネフロアブル	1000倍	前日/2回	C	◎	◎	0	◎	◎	0
ダニトロンフロアブル	1000～2000倍	前日/1回	D	-	◎	-	-	-	-
バロックフロアブル	2000倍	前日/1回	E	×	◎	-	×	◎	-
粘着くん液剤	100倍	前日/ー	F	◎	-	*	◎	-	*
ムシラップ	500倍	前日/ー	F	-	-	-	-	-	-
サンクリスタル乳剤	300～600倍	前日/ー	F	-	○	0	○	○	-

注) 系統：A：マクロライド、B：ペーダクトニトリル誘導体、C：その他、D：フェノキシピラゾール、

E：オキサゾリン、F：気門封鎖型

卵：卵に対する影響。成：成虫に対する影響。

残：その農薬が天敵に対して影響のなくなるまでの期間で単位は日数。

天敵に対する影響は◎：死亡率0～25%、○：25～50%、△：50～75%、×：75～100%、-：試験データなし

*：薬剤乾燥後に天敵を導入する場合には影響がないが、天敵が存在する場合には影響が出るおそれがある。

表中の影響の程度及び残効期間は目安であり、気象条件により変化する。

天敵に対する影響は日本バイオリジカルコントロール協議会の「バイオコントロール2012 VOL16 No.1」から引用。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。

5 連絡先

愛知県農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除室
電話 0561-62-0085 内線471